

目標 場合の数と確率, 図形の性質, 数学と人間の活動の関わりについて理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習得を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識し活用できることを目標とする。

位置づけ 次年度以降の全員必修「SS 数学Ⅱ」, 「SS 数学Ⅲ」につながるだけでなく, 数学的な考え方を日常の場面でも利用できるようになる。

■使用する教材

- ・教科書 NEXT 数学 A (数研出版)
- ・問題集 CONNECT 数学 I + A (数研出版)
- ・参考書 新課程チャート式  
解法と演習数学 I + A (数研出版)
- ・過去の模擬試験問題
- ・自作プリント ほか

■学習する単元とおおよその時期

- ・場合の数と確率【4～9月】 単元テスト 1
- ・図形の性質【10～1月】 単元テスト 2
- ・数学と人間の活動【2～3月】

■授業の流れ, 予習・復習を含めた学習方法

既習内容を発展させ理解を深める。新しく出てくる概念や定義・定理を理解する。問題解決のための方針をたて, 次時で扱われる内容を予習しておくことが望ましい。授業後の復習や演習も十分に行うこと。

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し, 応用できる。</li> <li>・事象を数学を用いて処理したり, 数学的に解釈し表現したりする技能が身に付いている。</li> <li>・数学と人間の活動においては日常の身の回りにあるものを数学的な処理をとおして理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数や式を目的に応じて変形する力を身に付けている。</li> <li>・図形の性質や計量を論理的に考察し表現する力を身に付けている。</li> <li>・図形の性質を見だし, 論理的に考察する力を身に付けている。</li> <li>・確率の性質に基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学を活用できる場面がないか常に意識し, 論理的に思考しようとする態度を十分に身に付けている。</li> <li>・自らの思考による問題解決の過程を振り返り改善点を模索する姿勢を十分に身に付けている。</li> </ul>
	B 上記の基本的な内容がおおむね達成できている。	上記の基本的な内容がおおむね達成できている。	上記の基本的な姿勢が身に付いている。
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	定期考査, 単元テスト 小テスト 課題の提出内容	定期考査, 単元テスト 授業中の発言内容	授業中の参加態度 課題の提出状況 グループ学習における積極性